

オオルリ

Cyanoptila cyanomelana

ヒタキ科・夏鳥

名前の由来

背中が瑠璃色にちなみ「るりてう(るりちょう:瑠璃鳥)」と呼ばれたのが、後にコルリ(小瑠璃)と区別してオオルリ(大瑠璃)になった。漢字名:大瑠璃



撮影:浦幌野鳥倶楽部

オオルリ(オス)

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)16.5cm。スズメよりも大きい。ヒタキ類の中では大きい。

オスは頭上から背が目目のさめるようなルリ色で、顔からのど、胸が黒い。腹は白い。

メスは上面が茶褐色。のどと腹は白く、胸と脇は褐色。

声:繁殖期には高い木の梢などにとまって「ピーヒーリリ、ピーピーリリ、ピールリピールリ、ジェジェツ」とよく通る声でさえざる。メスもオスに似た声を出す。

地鳴き(さえずりではない普通の鳴き方)では「クワッ、クワッ」「タッタッ」と鳴く。

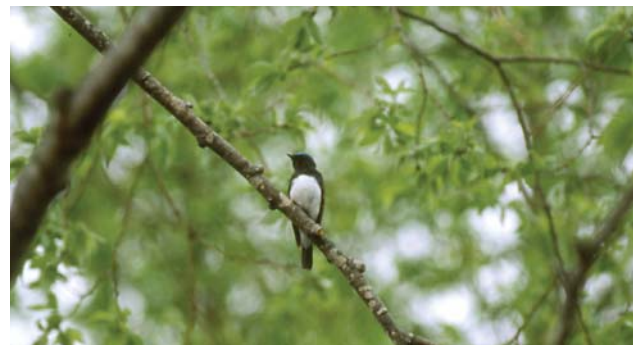
類似種と区別点:オスがコルリ(オス)と、メスがキビタキのメスと似ている。

オオルリのオスはのどが黒い。またオオルリのメスのはのどと腹がはっきりと白い。



撮影:叶内拓哉

オオルリ(メス)



下から見たオオルリのオス。白い腹が目立ち、その周囲はほとんど黒い

生息環境・分布

低山帯から亜高山帯にかけて生息し、とくに溪流沿いのよく茂った林に多い。林の中の湖の畔や林と牧場の境などでも見られるという。渡りの時期には市街地の公園でも見られる。

分布:中国東北部、ウスリー地方、朝鮮半島、日本で繁殖し、冬はインドシナ半島やフィリピンなどに渡る。

日本には夏鳥として飛来し、南西諸島を除く全国各地で繁殖する。

北海道では夏鳥で、5月上旬に渡来し、繁殖する。低山帯の森林の、特に沢沿いに多い。

十勝には、夏鳥として5月上旬に渡来。低山帯の森林に生息し、繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期					繁殖							
東南アジア(越冬期)	越冬										越冬	

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葎原・樹林) 鳥類
ワシタカ

食性・他生物との関わり

空中を飛ぶチョウ、ガ、アブ、羽化した水生昆虫などの昆虫。ヒナを育てるときには青虫などの昆虫の幼虫や成虫、ムカデなどを与える。

飛んでいる虫に向かって、枝先から飛び出し捕らえて元の枝に舞い戻る、というフライングキャッチ法で捕らえる。

ジュウイチというカッコウの仲間の鳥に托卵されることがある(托卵:他の鳥の巣に卵を産み付け育てさせること)。捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～8月、一夫一妻で繁殖する。

繁殖地には先にオスが飛来してなわばりを決め、そこへメスが飛来してつがいとなるという。(→興味深い話の項参照)

崖、溪流近くの落葉広葉樹林内の岩または土壁に巣を作る。多量のコケと少量の木の根や落ち葉を固めて、下から見ると木のこぶのように見えるお椀形の巣を作る。産座には細

い木の根などを敷くという。

3～5個産卵し、卵はメスだけが抱く。(→興味深い話の項参照)約14日でヒナがかえり、約12日で巣立つ。

巣立ち後も約10日間オス、メス、巣立ちヒナで家族群を作るといふ。

興味深い話

■ジュウイチというカッコウの仲間の鳥に托卵されることがある。(托卵:他の鳥の巣に卵を産み付け育てさせること)

■よくとおる声でさえずる。コマドリ、ウグイスと並んで日本の三鳴鳥といわれる。

■さえずりにはいくつかの替え歌があり、ほかの小鳥の鳴き方をまねることもあるという。

■オスの美しいルリ色は色素による発色ではなく、光の回折や散乱によって発生する構造色と呼ばれるものである。

■繁殖地にはオスが先に来て、谷沿いに1列になわばりを作る。

■なわばり作りの初期にはオス同士は身体的な争いも含む激しい争いを行い、その際「ジッ」という音や「パチン」というくちばしを鳴らす音が聞こえるという。

■ヒタキ類の中では遅くまでさえずる方で、8月上旬までさえずることがある。

■巣の近くに捕食者を発見した場合に、メスもさえずるともいふ。ヒナの巣立ち後もその近くの危険に対してさえずるともいふ。

■また、メスがオスと並んで交互にさえずることがあるという。

■メスの抱卵中、オスは木の梢でさえずっていて、メスが採餌のために巣を離れると一緒に連れ立って餌を食べるといふ。



オオトリのオス

配慮事項

山地の、特に溪流沿いの樹林が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1975
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I ~III」清棲幸保、講談社 1978

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ